

H「ねえ、ねえ、熊さん、髑るってさ、男が寄ってたかって女の人を苛めるんだらう？」

K「そうさな、男が女を挟んでキュウキュウ締める…字からして窮屈そうだな」

H「でも藤尾っていう人には当てはまらないね」

K「どうしてだい？」

H「だって知らぬ顔で内側を向いているって書いてある。雨が降ろうが槍が降ろうが自分しか見えてないから関係ないんじゃないの」

K「お前さん、変なところに気付くねえ」

H「だからさ、この人の場合、女一人で二人の男を天秤にかけてる字に見えるんだよね」

K「うん。でもな、ハつつあん、いくら強くても女は女だ。その証拠にヒステリー起こしてブツ斃れただらうが」

H「ぶっ倒れるって、行き倒れかい？」

K「そうさ、斃れるってえのはな、人偏の倒れるを書いちゃいけないよ。死ぬほうの斃れるという字を書くんだ。何せ時代の行き倒れだからな」

珍野亭苦沙弥

主人も鼻子
や落雲館の
学生に髑ら
れて大変だ

髑る

藤尾もルサンチマン
だが、やはり許せん

